



京都市立 西京極中学校

校是 「自立と貢献」

学校だより

令和5年度

12月

人権学習

12月10日は「世界人権デー」です。これは、1948年12月10日に、世界人権宣言が国連総会で採択されたことに始まります。世界人権宣言は、世界中の人の自由と尊厳を平等に守っていくための世界的ルールです。また最近よく耳にする「SDGs」でも、「貧困をなくそう」、「飢餓をゼロに」、「すべての人に健康と福祉を」、「質の高い教育をみんなに」、「ジェンダー平等を実現しよう」など、私たちの人権に関わる項目がたくさんあげられています。

今年度の人権学習は、1年生は障がい者に関する問題、2年生は在日外国人に関する問題、3年生は同和問題を中心に、私たちの身のまわりの問題について考えます。また、11月13日5, 6限には、多様な性についての理解を深める講演会を実施しました。講師には本校3度目となる大久保暁さんをお迎えしました。大久保さん自身の経験をふまながら、LGBTQの基礎知識、自分らしさについて、カミングアウトするときの気持ちやされたときの対応などについてお聞きしました。「大久保さんにとっての自分らしさって何ですか?」などの質問も出て、有意義な時間でした。みんな違っていてそれでいい・・・それは、本校の校是にある「貢献」の基盤となるものです。私たちみんなが優しい気持ちになれる、そんな講演会でした。



生徒会認証式

11月9日5限目、生徒会役員と後期学級役員の認証式が体育館で行われました。昨年度まではリモートで開催していましたが、今年度は体育館に全学年が集合して開催することができました。旧生徒会役員の皆さんからは、この1年間の活動を漢字1文字に表しながら振り返っていました。新役員のみなさんからは決意が述べされました。

今年度は「西京極の日」という新たな取組もスタートしました。新しい役員、委員のみなさん、決して失敗を恐れず、「自立と貢献」を目指してください。「やりがい」や「達成感」は、たくさんの努力と失敗の中から生まれます。

この日の放課後は、さっそく第1回目の評議・専門委員会が開催されました。新役員・委員のみなさん、がんばれ!私たち教職員も一緒にがんばります。

12月行事予定

1	金	合同運動会（1組） チャレンジ体験（2年生）	SC
2	土		
3	日		
4	月	チャレンジ体験事後学習（2年生）	
5	火	科学センター学習（1年生の半分）	
6	水	科学センター学習（1年生の半分）	
7	木	評議・専門委員会	
8	金	小中交流会（1組）	SC
9	土		
10	日		
11	月		
12	火		
13	水	三者懇談	
14	木	三者懇談	
15	金	三者懇談	SC
16	土		
17	日		
18	月	三者懇談	
19	火	三者懇談	
20	水	三者懇談	
21	木		
22	金	終業式	
23	土		
24	日		
25	月	預り金振替日	
26	火		
27	水	学校閉鎖（1/3まで）	



↑上の写真・・第1回専門委員会で委員長から認証状を受け取っているようすです。

生き方探究チャレンジ体験（2年生）

11月28日から12月1日まで、2年生は地域のたくさんの事業所にご協力いただき“チャレンジ体験”を実施しました。事前に挨拶の仕方や電話のかけ方などのマナーを学習し、当日に臨みました。それぞれの事業所ではいつもの学校では学ぶことのできない貴重な体験ができたと思います。この体験から、社会の中の一員である自分自身を見つめなおすことができればいいですね。



天神川 河川清掃活動

11月26日（日）、地域のボランティアのみなさんが天神川の清掃をしてくださいました。川の中に捨てられているさまざまなゴミを一つずつ手で拾い上げてもらいました。きれいになった川を橋の上から眺めると、「天神川の景色ってこんなに綺麗だったんだなあ」と改めて気づきました。綺麗があたりまえ・・ではなくて、綺麗な環境を保つためにたくさんの人の努力や地域を愛する気持ちがあることを私たちは忘れてはいけないと思います。そして私たちもこの地域の一員として、地域を愛する一人として、何ができるか考えていきたいと思います。



←川の中に入って清掃をしてもらいました。写真ではわかりにくいですが、川の上の歩道でもたくさんの参加者にゴミを拾ってもらっています。

きれいになった天神川→
こんなに綺麗な景色なんですね



心を育てる親の関わり 小P連・中P連合同学習会に参加して

11月22日に、小P連はぐくみ委員会と中P連親まなび委員会合同の学習会があり参加してきました。京都シュタイナ一教室を主宰されている木村賢司先生の講演には、心に残る話がいくつもありました。例えば・・「思いやりの気持ち」について。私たちは小さなころに「楽しい」「嬉しい」という喜びを分かち合う経験（喜びの共有）をしながら信頼関係を構築していく。その信頼関係があるからこそ、「悲しさ」も共有できる。そうしてはじめて「思いやりの気持ち」をもつことができる・・・という話。また、こんな話もありました。中学生にもなるとさまざまな感情をもつようになるが、それをコントロールする力はまだ十分に育っていない。だから他者とぶつかり合うし、親に反抗もする。ぶつかり合ってあたりまえだし、その経験から感情をコントロールする力を学んでいく。・・・最近の中学生をみていると、ぶつかり合うことを避けてばかりいるんじゃないかなあ、、、と心配になることもあるのですが、みなさんはどうですか。

令和5年度 教育実践功績表彰

毎年京都市立小中高校において優れた教育実践をした個人、グループが表彰される「教育実践功績表彰」に、今年度は本校の長谷川先生と石川先生が選ばれました。おめでとうございます！